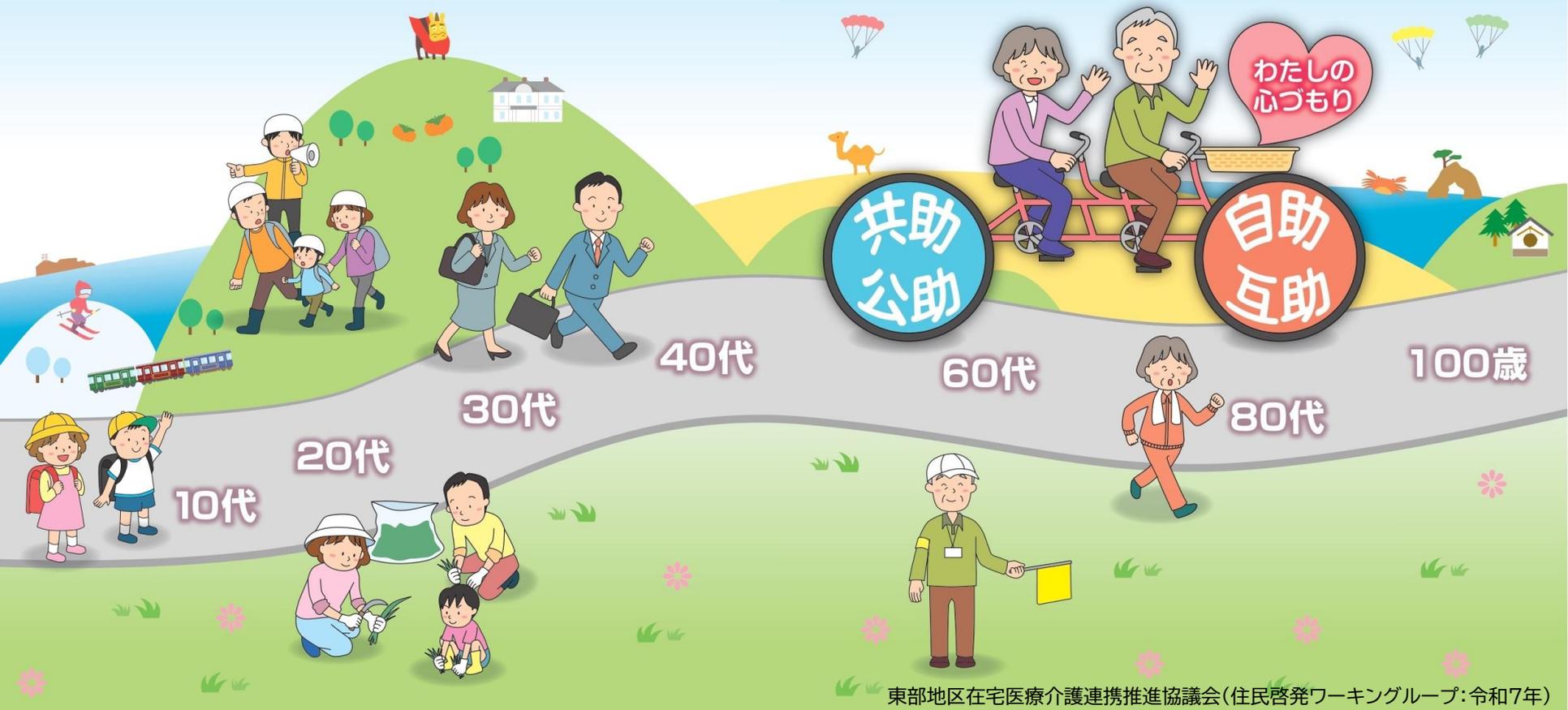


# 麒麟のまちの地域共生社会

みんなで作る・つながる地域づくり



東部地区在宅医療介護連携推進協議会(住民啓発ワーキンググループ: 令和7年)

地域包括ケアシステムの要素である「自助・互助・共助・公助」を自転車の前輪と後輪に例えて、両輪がともに動くことの重要性を表現しています。また、自転車のカゴには「わたしの心づもり」があり、自分の心づもりを考え、共有することも、豊かな人生を送るために必要なこととしています。ロードマップは、0歳から100歳まで人生100年時代を歩むなかで、どの年代でも自分の生き方を何度でも見つめ直し、どのタイミングでもわたしの心づもり(ACP)を実践し、地域の中で役割を持ち続けることが大切であることを表現しています。

いつ何どき、自分や家族が病気やケガ、災害などで障がいを抱えることになるか分かりません。学校の友だち、職場、地域や社会との交流が  
 づらくなり、ひきこもることになるかもしれません。みんなが「我が事」として捉え、「つながり」を地域の人々と一緒につくっていくことが大切です。

## 地域共生社会とは・・・

高齢者、障がいのある人、子どもなど制度・分野ごとの「縦割り」や、サービスの「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、世代や分野を超えて「まるごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていく社会のこと。

### 地域の「つながり」が弱まってきています

【出典】令和6年度鳥取県の政策に関する県民意識調査 結果報告書  
 地域で人と人のつながりがあると思うと答えた人の割合

56.4% → 49.0%  
 (令和元年度) (令和6年度)

人と人とのつながりそのものがセーフティネット



## 地域共生社会の主な取り組み

### つながりサポーター

自分の住む地域で「孤独・孤立」の状態にある人を見守り、必要に応じて声をかけ、専門機関につなぎます。あなたの第一歩が生きづらさを感じる人の未来につながります。



### 地域で支え合う防災体制（一例）

鳥取市ウェブサイトより



### 地域の中でもこのような問題が起きています

個人の問題ではなく、世帯や地域の困りごとになっています。

#### 8050問題

高齢の親(80代)がひきこもり状態の子ども(50代)を支えている



#### ヤングケアラー

病気の親や兄弟の世話をする子ども。家族のことなので誰にも相談できず、孤立している



#### ごみ屋敷問題

高齢者や認知症など一人暮らしで、ゴミ出しや片付けが難しくなり、誰にも頼めず「ごみ屋敷」に・・・

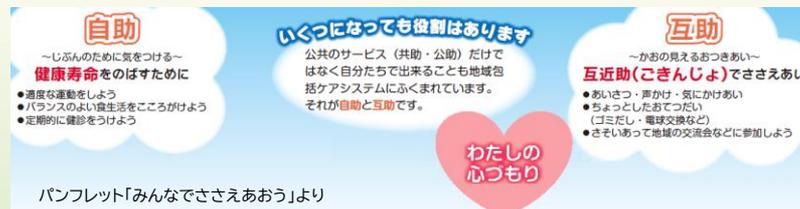


#### ダブルケアラー

子育てをしながら親の介護もしている状態。頼れる親族もおらず、疲労が蓄積・・・



## 地域包括ケアシステムの推進は「地域共生社会」の実現に向けた重要な取り組みです



## 認知症と地域共生社会

共生社会の実現を推進するための認知症基本法が2024年1月に施行されました。認知症があってもなくても就労・社会参加など同じ社会でともに生きる、尊厳と希望を持ち「認知症とともに生きる(共生)社会」を目指します。  
 ※「市民一人ひとりが、新しい認知症観を理解し、実践する」を基本的な考え方とし、取り組みを進めていきます。(令和7年3月：鳥取市認知症施策推進計画より)